

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
経営学Ⅱ business administration Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(上級ビジネス実務士必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
経営学Ⅰ、ビジネス実務総論Ⅰ・Ⅱ、起業論、経営組織論、技術戦略経営、知的戦略マネジメント論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ビジネス実務総論Ⅱ、マーケティングⅡ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
國分三郎	本館 2F	木曜日 12:10~13:00		授業中に指示します
授業の概要				
経営学Ⅰで学んだ人を対象に現代経営学の基礎概念や基礎理論を学ぶ。まず、企業の利潤獲得を概観して企業の有るべき姿を考えた後、経営資源の問題を取りあげて経営資源の有効な利活用について考える。次いで、現代企業を組織的観点からとらえ効率的な経営管理は如何にあるべきかを考える。受講者は現代社会と企業が直面する問題を認識し、将来の自分のキャリアについて考える。				
授業の目標				
①企業の経営理念と経営資源を理解して現代企業の行動を説明できるようにする。 ②現代企業の利益獲得行動を考究し企業のあるべき姿を説明できるようにする。 ③現代企業の組織的形態を理解して、そこにおけるマネジメントの重要性を説明できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義方式であるが出来るだけ対話方式を取り入れて受講者の理解を深めたい。また、DVDなどの映像も使用して理解を深めたい。				
学習の成果(学習成果)				
現代企業の行動基準を利潤動機と社会貢献動機に分けて考察し、それを踏まえて企業の利潤獲得行動の正当性を理解して、経営理念の重要性、経営資源の有効活用、さらに、経営組織の編成原理を説明できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明)			
第2回目	経営目標としての利潤の追求(利潤にまつわる悪いイメージ、新しい利潤概念の出現)			
第3回目	新しい企業観と利益概念の出現(新しい企業観出現の背景、新しい企業観と経営者、新しい利益概念)			
第4回目	企業目標の検討(利益の意味、利益の測定、報酬としての利益)			
第5回目	株主利益とステークホルダーへの奉仕(株式会社の所有者、ストックホルダーからステークホルダーへ、企業の環境づくり)			
第6回目	企業の目的指向性の構造(目的指向性を持つ企業、経営理念とは、経営理念の解釈と変更、経営戦略の策定)			

第7回目	企業の利用する経営資源(経営資源とは、ヒト、モノ、カネ)	
第8回目	新たな経営資源の登場(情報、企業文化、時間、技術) 小テスト	
第9回目	経営資源の問題領域と特徴(経営資源の獲得と分配、時代の変遷と経営資源の変化)	
第10回目	経営資源の獲得・利用・蓄積・分配	
第11回目	マネージメントとは(企業の管理、マネージメントの過程)	
第12回目	企業における組織づくり(企業における作業の分化、経営機能の分化、組織の原則)	
第13回目	組織の基本的形態と大企業の組織	
第14回目	経営学Ⅱに関する理解度を確認するため、講義全般の範囲を対象とした試験	
第15回目	まとめと一連の講義の振り返り(授業の補足すべき内容の説明や受講者からの質問に答える)	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
	授業参加態度	10% 授業に積極的に参加して、配布物資料以外の重要な事項についても主体的に調べ、授業での疑問点には進んで質問すること。
	レポート	10% 企業経営に関するDVDを鑑賞した後、その内容をテーマに添って論理的・一貫性を以て記述すること。
	調査報告書	
	小テスト	10% 出題された5つの基本的な専門用語を、1問300字以内にその要点を纏めて記述すること。
	試験	70% 設問の主旨を理解した上で、設問で求められている内容を必要な専門用語を使いながら一貫性を以て論述すること。
	発表内容(態度含む)	
	その他	
教科書と参考図書		
教科書 経営学Ⅰで使用したものを引き続き使用する。片岡信之編『はじめて学ぶ人のための経営学 ver.2』文真堂		
履修上の留意点・ルール		
授業中の私語は禁止する。また、原則的に欠席・遅刻は禁止する。甚だしい時は減点の対象とする。		